

厚生科学審議会感染症分科会感染症部会 「大規模感染症事前対応専門委員会」の設置について

1 背景

米国における炭疽菌による死亡例の続発、2002年のワールドカップサッカー開催等の状況を踏まえ、我が国で大規模な感染症が発生した場合を想定した事前対応のあり方について、専門家の立場から検討する必要がある。

2 検討事項

- (1) 想定される感染症の予防・治療並びにまん延の予防に関する技術的
事項
- (2) 希有かつ重篤な感染症が我が国で発生した場合の対応
- (3) 既存の法体系の中における対応の手続きの確認
- (4) 国際的連携のあり方

3 構成

<感染症部会員>

岩本愛吉：東京大学医科学研究所教授	(臨床)
岡部信彦：国立感染症研究所感染症情報センター長	(疫学)
相楽裕子：横浜市立市民病院感染症部長	(臨床)
高橋 滋：一橋大学大学院法学研究科教授	(法律)
雪下國雄：(社)日本医師会常任理事	(地域医療)
吉川泰弘：東京大学大学院農学生命科学研究科教授	(獣医学)

<専門委員>

倉田 毅：国立感染症研究所副所長	(基礎)
仲村英一：(財)日本医療保険事務協会理事長 (元WHO執行理事) (元防衛庁「生物兵器への対処に関する懇談会」座長)	
橋爪 壮：(社)細菌製剤協会理事	
牧野壮一：帯広畜産大学畜産学部獣医学科助教授 (厚生科学研究「炭疽の発症機構の解明と迅速検出法の確立に関する研究」班主任研究者)	
山本保博：日本医科大学附属病院高度救命救急センター教授 (厚生科学研究「大規模感染症発生時の緊急対応の在り方に関する研究」班主任研究者)	
原口義座：国立病院東京災害医療センター救命救急センター副センター長	